九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[58]文學研究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/2339137

出版情報：文學研究. 58, 1959-07-30. Faculty of Literature, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

彙　報

九州大学文学部文学関係講義題目

昭和33年度第一学期（自昭和3333年4月 至昭和3333年10月）

言　語　学

言語学概論　　吉町助教授
アメリカ言語学　　〃

国語学・国文学

古代社会に於ける言語と文学
（演習）　万葉集　　福田教授
（〃　）　古代語の語法について　　〃
（特研）　古代日本語の音韻　　〃
（演習）　日本霊異記（上）　　春日助教授
（講義）　日本文法　敬語法の諸問題　　〃
（講義）　近世文学史　　中村教授
（演習）　西鶴置土産　　〃
（講読）　つれづれ草　　春日助教授
（講義）　平安朝文学史　　今井助教授
（講読）　大和物語　　〃
（演習）　本朝文粋　　〃
（演習）　枕草子研究　（分校）穴山助教授
（特研）　近世文学意識の研究　　中村教授

中　国　文　学

（講義）　唐代文学史　　目加田教授
（演習）　楚辞　　〃
（〃　）　詩経　　〃
（〃　）　琵琶記　（分校）浜教授

英　文　学

（講義）　英語学　　毛利助教授
（講読）(1)　Arnold Bennett: The Old Wives' Tale.　　〃
（講読）(2)　中世英語　　〃
（講義）　英国十九世紀初頭の文学　　前川教授
（演習）　John Webster: Duchess of Malfi, World's Classics.　　〃
（講読）(1)　Virginia Woolf: To the Lighthouse.　　〃
（講読）(2)　John Donne: Poetry and Prose.　　〃
（演習）　英語学　　ガードナー教師
（講義）　〃
（講読）　Shakespeare: Antony and Cleopatra.　　〃
（講読）(1)　Shakespeare: Macbeth.（分校）後藤教授
（講読）(2)　Milton: Samson Agonistes.　（〃　）〃
（講読）　アメリカ文学　（〃　）森岡助教授

(演習) W. Blake: Select Poems (分校) 茗荷教授

(演習) David Garnett: Lady into Fox. (英文専攻外学生ノタメ) (〃) 吉竹助教授

独文学

(講義) 独語学概論 西田助教授

(講義) トーマス・マン研究 高橋教授

(講読) ファウスト 〃

(演習) 〃

(講読) G. Büchner: Woyzeck. 西田助教授

(演習) 中高ドイツ語 (Hartmann von Aue: Gregorius.) 〃

(講読) Nietzsche: Pionie und Blitz. (分校) 石中教授

仏文学

(講義) サント・ブーヴ研究 進藤教授

(演習) Molière: Les femmes savantes. 〃

(講読) ランソン・フランス文学史 〃

(講義) ルソー特講 永田助教授

(講読) (1) A. Maurois, l'Art de Penser. 〃

(講読) (2) G. Flaubert, Un coeur simple. 〃

(演習) 十八世紀小説演習「ヴォルテール文集」 (分校) 佐藤教授

(講読) P. Claudel: Un regard sou l'âme japonaise. (〃) 石助教授

(特研) La Fontaine: Fables. 進藤教授

(演習) J. J. Rousseau, Émile ou de l'Éducation. 永田助教授

(演習) 十七世紀モラリスト演習、ラ・ブリュイエール著「レ・キャラクテール」 (分校) 佐藤教授

古代語

ラテン語初歩 (分校) 東光講師

ギリシャ語初歩 長沢教授

外国語

中国語演習 影山講師

中国語(三年) 〃

中国語(四年) 〃

英語 ガードナー教師

英語 (分校) 三井教授

独語 (〃) 山川助教授

仏語 (〃) 佐藤(弓)助教授

露語 吉町助教授

言語学

昭和33年度第二学期 (自昭和33年10月 至昭和34年3月)

言語学概論 吉町助教授

アメリカ言語学 〃

国語学・国文学

国語学概論 福田教授

(演習) 万葉集 〃

(講義) 日本文法（敬語法各論） 春日助教授
(演習) 日本靈異記（上） 〃 福田教授
(特研) 古代語の語構成について 中村教授
(講義) 近世文学史 〃 春日助教授
(演習) 西鶴置土産 〃 今井助教授
(講読) つれづれ草(下) 〃 中村教授
(講義) 平安朝文学史 〃 目加田教授
(講読) 源氏物語・末摘花巻 〃 浜教授
(演習) 八重葎 〃 毛利助教授
(演習) 芭蕉の俳諧 〃 ハーバート教師
(特研) 近世文学意識の研究 〃 前川教授

中国文学

(講義) 唐代文学史 〃 毛利助教授
(演習) 楚辞 〃 〃
(演習) 琵琶記 (分校) 〃 〃

英文学

(講義) 英語学（古代中世英語初歩） 〃 〃
(演習) 英語学 〃 〃
(講義) 英文学史 〃 〃
(演習) Modern English Poetry 〃 〃
(講読) C. Dickens: Martin Chuzzlewit. 〃 〃
(講読) John Milton: John Milton's Poems. 〃 〃
(講読) Matthew Arnold: Culture and Anarchy. 〃 〃
(講読) Priestley: Angel Pavement. 〃 〃
(講読) Works of Geoffrey Chaucer. 〃 〃
(講義) Modern American Poetry 〃 サウスワース教師
(講読) Shakespeare: Hamlet. 〃 〃
(演習) Spenser: Faerie Queene. (分校) 〃 〃
(講義) W. Blake: Select Poems. 〃 ハーバート教師
(講読) D. H. Lawrence: Sons and Lovers. 〃 〃
(講読) Goldsmith: She Stoops to Conquer. (分校) 〃 〃
(講読) Shakespeare: Othello. (〃) 〃 〃
(講読) アメリカ文学（Mark Twain: The Mysterious Stranger.）(〃) 〃 〃
(演習) David Garnett: Lady into Fox, (〃) 〃 〃

独文学

(講義) 独語学概論 〃 西田助教授
(講義) トーマス・マン研究 〃 高橋教授
(講読) ファウスト 〃 〃
(演習) 〃 〃
(講読) Strich: Natur und Geist der deutschen Dichtung. 〃 西田助教授
(演習) 中高ドイツ語 (Gottfried von Straßburg: Tristan und Isolde.) 〃 〃

（講読）Spranger, Goethes Weltanschauung.　（分校）石中教授
（特研）　高橋教授

仏文学

（講義）Pierre Carneille の研究　進藤教授
（演習）Voltaire: L'Ingénu.　〃
（演習）Corneille: Nicomède　〃
（演習）十八世紀小説演習「ヴォルテール文集」　（分校）佐藤教授
（講読）ポール・クローデル散文　（〃）石助教授
（講読）ルネ・カナの Du sentiment de la Solitude Morale.　（分校）佐藤助教授
（講読）ボードレール「悪の華」　ジャロー講師
（特研）Benjamin Constant.　進藤教授
（演習）十七世紀モラリスト演習（ラ・ブリュイエール「レ・キャラクテール」）　（分校）佐藤教授

古代語

ギリシャ語初歩　長沢教授
ギリシャ語初歩　藤沢助教授
梵語初歩　伊原助教授
ラテン語初歩　東光講師

外国語

中国語演習　影山講師
中国語　〃
英語　サウスワース教師
英語　（分校）内山助教授
独語　（〃）山川助教授
仏語　（〃）石助教授
露語　吉町助教授
中国語初歩　影山講師
独語初歩　林助教授
仏語初歩　城野助教授
露語初歩　吉町助教授

国語学・国文学関係

一、語文研究第6・7号（故杉浦正一郎教授追悼号）　発行（昭32・12）

一、故杉浦教授追悼号によせて　福田良輔
一、俳人諸九尼の生涯——なみ女の頃——　大内初夫
一、「おくのほそ道」板行以前の反響——影響史の序説——　白石悌三
一、伊勢物語の章段配列に関する一考察——助動詞の用法から——　遠藤康子
一、中世歌学書に見える言語意識の性格　佐田智明
一、上代における母音音節の脱落について　森山隆
一、二葉亭四迷の現実認識　立川昭二郎
一、狭心の道心　大原一輝
一、心敬と自然美——彼の反仏教的発想への理解の試み——　井手恒雄

一、万葉集における有情とその存在の表現
——「ゐる」「をる」を中心として——　瀬良益夫
一、万葉集に於ける虚字の効用　瀬古確
一、正安本「義孝集」翻刻と校異　今井源衛

一、昭和三十三年度卒業論文発表会（昭33・2・9）

学部

近松の世話物における進展について　田中義夫
芭蕉の歌仙連句の構成　加藤健
つれ〴〵草の形態　佐伯祐子
柿本朝臣人麿集の性格について　福田澪
狂言にみえる言葉　岸本卓
蜻蛉日記成立の研究　福井妙子
西鶴の方法　山口宗久
石川啄木試論　渡辺斌
今昔物語集における王朝説話の問題　大隅礼子
二葉亭四迷論　田中清文
菅原孝標女研究　永江京子

大学院

キリシタン懺悔録の研究　篠崎久躬
日本書紀に見える朝鮮語　藤井茂利

一、九大国文学会総会並びに研究発表会

（昭33・5・18　於法文経第七演習室）

上代の個有名詞に見える二、三の字音仮名について　原口裕
切字の史的研究　田中道雄
陳述論　益田利生
「木曾」と「木曾殿」と　笠栄治
南九州方言の形容詞の活用について　上村孝二
右終了後
近畿文学遺跡スライド映写　解説　中村幸彦教授

一、第八回西日本国語国文学会

（昭33・11・21～22両日　於宮崎大学学芸学部）

上代助詞「を」について　宮崎大淀高秋田義昭
百合若文学成立に関する事項　福岡女子大前田淑
平安朝における文芸社会成立の一型式　下関商業短大岡精己
俳人諸九尼の前号「雎鳩」について　鹿児島大大内初夫
「活語断続図説」の問題　福岡女子大古田東朔
草仮名による字音表記——東大寺切の場合——　九州大春日和男
輿論島語と上代国語との比較研究　加治木財務事務所山田実
上代ェ列音考　九州大森山隆
馬琴の所謂稗史七法則について　鹿児島大浜田啓介
万葉集巻五梅花歌序における「詩紀落梅之篇」について　福岡女子大倉野憲司
日本文法論の体系　延岡向洋高藤沢一雄
百人一首考——その成立と伝来をめぐって——　佐賀大学島津忠夫

徒然草の奥行即ち兼好の為人　九州大学　穴山孝道
公開講演
日本文学の喜劇性　九州大学教授　中村幸彦
国文学研究における価値論的課題　宮崎大学教授　小倉正

中国文学関係

○中国文芸座談会

第五十四回（昭和三十三年三月於九大文学部会議室）
老舎　大谷丙三
丁玲論　池田昭雄
陳子昇について　山下梗子

第五十五回（同　五月　於三畏閣）
柳宗元の生涯　倉員峰雄
徐渭「玉禅師」の仮面戯について　浜一衛

第五十六回（同　六月　於九大文学部会議室）
丁玲批判その後　小村正三
嵇康評伝　林田慎之助

第五十七回（同　十一月）
王瑤批判その他　小西昇

第五十八回（同　十二月　於九大文学部会議室）
周作人の生物学的なものの考え方　樋口進
人民公社について　池田昭雄

○中国文芸座談会ノート

嵇康評伝　林田慎之助
宋元話本の構造　小西昇
訳詩片　上尾龍介
老舎の文章構成法　大谷丙三

英文学関係

ガードナー教師去る
二年間の任期を終えて三十三年九月　東京お茶水女大に転任。三十四年秋英国に帰国の予定。

○ハーバート教師来任
ガードナー氏のあとをうけて同じくブリティッシュ・カウンシルの好意により三十三年十月来日。専攻はW・ブレイク。二十七才。二年間九大に滞在の予定。

○サウスワース教師来任
時を同じくして米国よりフルブライト教授として来日。トレド大学教授。六十才。十ヶ月間滞在の予定。

○英語劇公開
五月三十一日アメリカ文化センター講堂をかりて英文学科学生による英語劇を公開。
J. Galdsworthy: Escape
指導はガードーナー教師

○細入講師特別講義
立教大学細入教授は十一月七日から一週間アメリカの近代文学について特別講義された。

○日本英文学会九州支部大会

三十三年十一月十五・六両日熊本大学にて開かれた。研究発表のうち本学関係分は次の通りである。（順不同）（ ）内は卒業年次

○'Legend of Good women' (Prologue) の二つのVersions. 語彙的な差と社会的背景
純心女子短大　比良俊典 (27)

○構造言語学の意味観　福岡高等学校　岡国臣 (30)

○After 節と主節の時制　福岡学芸大学　楠田震 (27)

○'Roderick Hudson': Henry James' First Attempt at a Novel.
福岡大学　田所信成 (26)

○Henry James「ある婦人の肖像」
九州大学　多久和新爾 (特)

○The Plays of Henry James　福岡大学　船津辰巳 (28)

○'Huckleberry Finn' and 'A Farewell to Arms'
九州大学　森岡栄 (10)

○マシュー・アーノルドの詩の一批評的研究
長崎東高等学校　内田義郎 (27)

○T. S. Eliot 或は Sense of Time について
九州大学大学院　瓜生善美 (29)

○Joyce における静止
九州大学　中野行人 (28)

○Arthur Koestler as a Political Writer
八幡大学　本田司 (25)

○ジョン・キーツ「夜鶯の賦」
稲築高等学校　河野洋太郎 (33)

又、九大教養部後藤教授が「モームを研究して」と題して特別講演。

独文学関係

○日本独文学会 (一)

日本独文学会第十二回総会並に研究発表会は、昭和三十三年五月二十五・六日、東京の明治大学大学院に於いて開催された。尚総会にて、学会の名において、人文科学部門に対する予算の増額を要求することが決議せられた。

○日本独文学会 (二)

日本独文学会秋季研究発表会は、昭和三十三十月四・五両日、北海道大学主催の下に、同大学に於いて開催せられた。

○日本独文学会西日本支部学会

日本独文学会西日本支部は昭和三十三年十一月二十九日及び三十日の両日に亘り、宮崎大学学芸学部に於いて第十回総会並に研究発表会を開催した。

〔第一日〕十一月二十九日

総会（宮崎大学学芸学部講堂）

研究発表（その一）

一、ゲーテと漱石　古川充二

一、"Das Romantische" の諸問題について　相良憲一

一、トーマス・マンの「欺かれた女」について　森田弘

一、フォンターネに於ける文学的形姿の問題について　横山嘉良
一、ゲーテの「トルクヮアト・タッソー」について　小林健祐
一、ドイツのことわざにおける修辞法　山川丈平

〔第二日〕十一月三十日

研究発表（その二）

一、シラーの「メッシーナの花嫁」について　提山淑郎
一、文体論について　石川勝
一、マンの「ファウスト博士」について　土屋明人
一、ホフマンの「黄金の壺」について　空閑輝義
一、ヘッセ「荒野の狼」について　渡辺信正
一、ル・フォールとプロレスタンティズムの関係について　大谷恒彦

○エルヴィンヤーン講師独文学集中講義

南山大学文学部長ヤーン先生は昭和三十三年十月二十一日より二十五日まで「ドイツ文学史」及び「韻律学」を講義された。

仏文学関係

○昭和三十三年度卒論発表会（三月五日、第一演習室）

十九世紀フランス「文芸批評」　工藤康夫
ヴェルコール論　山本雍良
サン・テクジュペリの冒険　金田成実
ラマルチーヌの詩　佐藤茂守
ランボオ論　安部健児
人及び芸術家としてのフローベル　岡崎暉子
アルフレッド・ド・ヴィニーについて　近藤行子
バルザックの研究――「ゴリオ爺さん」をめぐって――　佐々木薫
ジュール・ルナール研究　手島信義
スタンダールの「赤と黒」について　手島倭子
ポール・ブルジェ論　浜文敏
モーパッサンについて　福岡明子
ゴンクール兄弟―Germinie Lacerteux をめぐって　福井澄子
E. Zola "Germinal,, を中心に　本吉美保子

終了後、三畏閣で予餞会を開催。

○日本フランス文学会昭和三十三年度総会（於早稲田大学）

六月七日（土）研究発表会・総会・懇親会
六月八日（日）分科会・シンポジウム

本学からの研究発表は

「ラシーヌの宗教劇について」　研究生　水波純子

またシンポジウム（「ローマン主義と自我の解放」）では、九大が「シャトーブリヤン」を担当し、佐藤弓葛助教授が代表で報告された。

○九州フランス文学会第七回総会（於九州大学）十一月一日（土）

研究発表会

"Le Disciple,, の或る読み方　九大大学院生　浜文敏

「クレーヴの奥方」とフランス心理小説　九大大学院生　安部　薫
スタンダールの Is personnalité littéraire について　九大大学院生　太田和男
「パンセ」におけるパスカルの人間観　会員　進　実恵子
プルーストの認識方法　西南大講師　山口俊夫
十九世紀末とアンドレ・ジイド　福岡女子大講師　中村栄子
"Lettres à la Fiancée,, の一考察　別府大講師　金柿宏典

総　会

公開講演会

評論家としてのモーパッサン　福岡大教授　大塚幸男
デカルトとアウグスティーヌス　九大教授　長沢信寿

終了後、東中洲エスキモーで懇親会を開催。

○永田助教授は一年間のフランス留学のため、十月二十六日羽田を出発、リヨンに向われた。

○城野助教授は一年間のフランス留学を終え、十月中旬帰日された。

○集中講義（十二月四日―十日）
生島遼一教授「スタンダール」

受贈雑誌

法学志林（法政大学図書館）
経済月報（住友銀行調査部）
一橋論叢（一橋大学）
国語国文（京都大学国文学会）
徳島大学学芸紀要（徳島大学）
人文学（同志社大学人文学会）
相模女子大学紀要（相模女子大学）
アメリカーナ（アメリカ大使館）
Sumitomo Bank Review（住友銀行）
文　化（東北大学文学部）
人文研究（大阪市大文学会）
国語国文学会誌（学習院大学）
音声学会会報（日本音声学会）
甲南大学文学会論（甲南大学）
経済月報（住友銀行）
山口大学文学会誌（山口大学）
論究日本文学（立命館大学日本文学会）
国文学踏査（大正大学国文学会）
日本文化（天理大学）
日本文学（日本文学協会）
万　葉（万葉学会）
横浜大学論叢（横浜市立大学学術研究会）
心理学研究（日本心理学会）
アカデミア（南山大学南山学会）
人文論究（関西学院大学人文学会）
尖塔（大阪　クラブ尖塔）
天理大学学報（天理大学人文学会）
基督教研究（同志社大学内同会）

立命館大学（立命館大学）
愛知大学文学論叢（愛知大学文学会）
英米文学（大阪府立大学）
三重県立大学研究年報（三重県立大学）
人文論究（北海道大函館人文学会）
大阪府立大学紀要（大阪府立大学）
東京支那学報（東大文学部東京支那学会）
郷土文化（郷土文化会）
日本民俗学会報（日本民俗学会）
人文研究（神奈川大学人文学会）
経営と経済（長崎大学経済学会）
アテネウム（アテネウム社）
連歌俳諧研究（お茶の水女子大俳文学会）
説　林（愛知県立女子大学）
神戸外大論叢（神戸外国語大学）
哲学研究（京都哲学会）
研究紀要（長崎県立短期大学長崎女子部）
東京経大学会誌（東京経済大学）
東京学大研究報告（東京学芸大学）
文芸と思想（福岡女子大学）
国文学研究（早稲田大学国文学会）
商大論集（神戸商大）

文学研究筆者別索引（筆者はABC順による　括弧内は輯号を示す）

有田忠郎

「悪の華」の統一性について（五一）

千代正一郎

独逸的なるもの（三三）

福田良輔

奈良朝時代東国方言の成立について（上）（中）（下）（三七・三八・四〇）
奈良朝時代東国方言に関する諸問題（四二）
——亀井孝氏金田一博士の批判に答えつつ——
古事記の純漢文的構文の文章について（四）
筑前国志賀白水郎歌十首の作者の複数性について（四六）
——表現形式と伝誦性とを中心に——
古代語法存疑　—ェ列音の連体形—（四八）
古代語法存疑　㈢—久語法について（五〇）
奈良時代東国方言の周辺
——言語基層・八丈島方言・補説——（五三）
奈良時代東国方言の音韻状態（一）（五六）
古代日本語に現はれてゐる動詞型連用形の特殊形について（五七）

今井源衛

花山院研究（その一）（五七）

春日和男

指定表現の様式　—発生過程よりの考察—（五〇）
「花桜をる少将」における語彙——小弓その他——（五一）
下照姫の歌—歌格と提示法と—（五二）
「也」字の訓読考
——「なり」の表記としての「也」字——（五四）
聽覚および視覚による表現（上）（五六）
指定辞「たり」雑考（五七）
——特にその発生と用法と——

春日政治

片仮名交り文の起源について（一）
古訓漫談（二）
「小学方言講義」より（四）
高野山にて観たる古点本—二（七）
宇治拾遺物語の一本より（九）
金光明最勝王経註本一本の古点について（一四）
法王帝説続考（二一）
聖語蔵御本央掘魔羅経の字音点（二三）
古訓語彙小攷（三三）
一八五〇年和訳馬太伝（三六）

片山正雄

文学科学概説（一）

国松孝二

愛と憎しみ「ニーチェと古典文学」の一章（三五）
運命への自覚（三六）
ドイツからの脱出
——ニーチェの個人主義の基底について——（三八）
ゲーテの革命劇をめぐつて（三九）
ニーチェについて（四〇）

小島吉雄

明治初期の歌論（一）
宗祇の晩年（二）
新古今和歌集の選集態度と選集事業（五）
所謂石津本新古今和歌集に就いて（八）

連歌に於ける美的情調（一一・一二）
新古今集歌風の註釈問題（一八）
春日博士所蔵二十一代集中の新古今和歌集に就いて（二三）
後鳥羽院の御文学（二五）
新古今集写本に於ける選者名の頭書に就いて（二八）
新古今集伝本考（三〇）
わが国近世の運命悲劇（三三）
見るに随いて（三四）
池袋清風の訳詩（三五）
「奥の細道」覚書（三七）
芭蕉の「荒海や」の句について（一）（二）（三八・三九）
歌集「みだれ髪」を論ず（四〇）

小牧健夫

ヘルデルリーンのエトナ劇断片（二）
クライストの「公子ホンブルク」の一問題（六・八）
銀の鈴（一一）ゲーテの従軍記（一五）
ヘルデルリーンの半神観（二二・二四・二六）
菜花行（二三）
クライスト随想（二八）
独逸浪漫主義の諸問題（三〇・三二）
正岡子規とレッシング（三三）
西芳寺の庭（三五）
われもまたアルカディアに（三六）
砂に書く（四〇）

小室光弘

土と文芸（三三）

前川俊一

ワーヅワースのソールズベリーテインターン旅行（三七）
ワーヅワースに於ける自然観の進展（三八）
ワーヅワース「辺境の徒」について 上（四〇）中（四二）下（四三）
バイロンの「ドン・ヂュアン」（四一）
「壮大なる耳目の世界」
—ワーヅワースの空間感覚、其他について— 上（四五）
中（五五）
英京雑記（五二）
ルーシー詩群について（五四）
ワーヅワースとデイヴイド・ハートレーの哲学（上）（五七）

松枝茂夫

鏡花縁の話—異国廻りを中心として（二六）
蝶菴居士張岱（二八）
菜天寥とその一家（三〇）
醒世姻縁伝の話（三二）
郝蘭皋の随筆（三三）
児女英雄伝の面白さ（三四）
金聖英の水滸伝（三五）

森永隆

謝恩（三三）

目加田誠

塡詞選釈（一三）
民国以来中国新文学（一四）
雅について（二〇）
白楽天の諷諭詩（二三）
邠詩考附東薪考（二五）
詩経に詠はれた自然界（二八）
陳礎甫い（二九）
春秋の断章賦詩に就いて（三一）
詩教（三三）
文心雕龍（三四・三五・四〇・四一・四七）

洛神賦（三六）
六朝文芸に於ける「神」「気」の問題（三七）
詩格及び詩境に就いて（三八）
李笠翁の戯曲（三九）
曹禹の戯曲（四二）
王維―安史の乱と詩人たち―（四三）
楽府についての一考察―民歌と文人の詩との問題―（四五）
水滸伝解釈の問題（五〇）
聞一多評伝（五二）
瞥海花（五四）
礼教喫人（五六）
二人の宝玉（五七）

永田英一

ヴィニーの哲学詩について（三三）
アンドレ・シェニエ（詩人の市民）（三五）
スタール夫人「ルソーについての書簡」（三六・四〇）
ルソー「マルゼルブ氏への書簡」（三八）
ルソー「対話録」余聞（四二）
ダランベール「ジュネーヴ論」（四四）
――ルソーについて――
ジュネーヴ市民（四六）
ルソー「学問芸術論」の背景（四九）
――デイション・アカデミー――
アンドレ・シェニエの政治的散文（五〇・五五）
アンドレ・シェニエ覚書（一）（五一）
アンドレ・シェニエとイギリス（五二）
ルソー「ボーモン猊下への書簡」
――ジュネーヴとの関聯において――（五三）
アンドレ・シェニエ覚書（二）（五六）
ルソーとヴォルテール（其一）（五七）

中山竹二郎

「貧者の友」ウイリアム・ラングランド（一）
イギリス中世の宗教劇（五）
イギリス古劇の詩形について（九）
チョウサアと現代英語（一三）
散文韻律について（一九）
チョウサアに於ける措辞的特徴について（二二）
ウエイリの英訳「源氏物語」（二三）
チョウサアその生涯と性格（二七）
キャンタベリ巡礼の世界（三〇）
チョウサアの二面性（三三）
「サ・ガウエインと緑の騎士」について（三四）
メリデイスの詩について（三五）
チョウサアの「トロイルとクリセイデ」（三六）
ソオロウとその生活観（三七）
英文学と貧困（三八）
イギリス宗教劇の世俗化（三九）
ウエイクフイールド劇「第二の羊飼の段」（試訳）（四〇）
『ヨーク劇』「イサク人身御供の段」（四二）
ル・モルト・アルチュール（四四）
「頭韻式」モルト・アルテュール」について（四七）
憶出と偶感（五七）

成瀬正一

十八世紀に於ける文芸サロン（二・三）
新旧両派の文芸論争（七）
モンテーニュと東洋の悟道（一六）
旅行報告書（一六）

西田越郎

シュテイフターについて（四三）

ワルテル・フォン・デル・フォーゲルワイデについて（四五）
ワルテル・フォン・デル・フォーゲルワイデの Elegie と Kreuzlied（四六）
ゲオルク・ビュヒナー（四八・四九）
ワルターの宗教性について（五〇）
ハインリツヒ・フォン・モールンゲン（五一）
――ミンネの一形態――
ヴァルター・フォン・デル・フォーゲルヴァイデ（五三・五五）
「パルチファル」における leit の問題（五七）

野上豊一郎
杉田玄白とその周囲の人達（一九）
使徒瞥見（三五）

小野島行忍
サツカ・パンハ・スツダンタ（三）
リツ・サンハーラ（一〇・一一・一三）
訳梵漫語（二三）
梵詩メーガ・ゾータ散文訳（二八・二九・三一）
草枕そぞろごと（三三）
梵語奈留別誌（三四・三六）

笹月清美
天平八年の遣新羅使一行の歌（一三）
古事記の文芸的性質に類する認識の発展（一七）
文芸活動の機構（二一）
本居宣長における道と文芸（二三）
語意考の成立過程を示す二・三の伝本について（二六）
本居宣長の国語研究（二九）
小林歌城のテニヲハ説（三一）
富士谷御杖の言語理論について（三三）
夕　顔（四〇）

佐藤通次
世界の劇性とゲーテの「ファウスト」（一）
雅　歌（四）
生の悲極性（八・九）
「思う」と「考える」（一〇）
教・性・格と体験（一四・一六・一七）
「老と親」とについて（二一）
創世神話とわが民族の原体験（二三）
「生む」の論理的構造（二五）
「超」の事行論的解放（二七）
表現の二契機―「見る」と「生む」と（二九）
文芸の志気―「ファウスト」研究に寄せて―（三一）
歴史と形態変化―ゲーテ研究の一齣―（三三）
創刊の頃（四〇）

重松泰雄
啄木の社会思想について（四三）

進藤誠一
「フイガロの結婚」とボーマルシエー（一）
ユージエーヌ・ラビツシュの喜劇（六）
スクリーブの功罪（八・九・一一）
コメディー・フランセーズの沿革（一四・一五）
十九世紀中葉以後に於ける仏蘭西風俗劇（一八・二五）
日本に於けるコメディー・フランセーズ（二三）
モリエールの結婚（二七）
マリヴオーの覚書（二九）
フランスに於けるイタリア人劇団の業蹟（三二・三四）
「ブリタニクユス」から「五大力」へ（三三）
作者俳優（三五）
フランス最後の喜劇（三六）

モリエールの芸風について（ノート）（三九）
マダム・ド・ロングヴイルの生涯（四〇）（四五）
ルニヤールの喜劇（四三）
ランブイ侯夫人のサロン（四七・五〇）
中山さんと私（五七）

杉浦正一郎

「奥の細道」制作心理（四一）
花屋日記の著者俳人文暁の研究（四三）
鷗外博士の俳句観、及び其の俳句について（四四）
九州蕉門の研究―㈠枯野家と『枯野塚集』―（四五）
九州蕉門の研究―㈡『漆川集』と筑前嘉穂俳壇について―（四六）
死に近き芭蕉―芭蕉の曲翠宛新資料書簡を中心に―（四八）
九州蕉門俳諧史概説（四九）
芭蕉連句研究―㈠「升買て」の巻（五〇）
芭蕉連句研究―㈡「けふばかり」の巻・「芹焼や」の巻（五一）
芭蕉連句研究㈢―「松風に」の巻―（五三）
芭蕉連句研究㈣（五五）―「此の里は」の巻―
素堂の真蹟二種について（五六）

高木市之助

吉野の鮎（二七）
国見攷（三〇）　玉島川仙媛放（三五）
牡丹芳（三三）　酒仙供養（三六）
思出十年―私本位に書きつづるところの―（四〇）

高橋義孝

芸術学、芸術史における没価値性の意味
―ウェーバーの一論文を中心に―（四〇）
トーマス・マンのフロイト論　その㈠（四一）（承前）（四二）
創造的余剰（四四）

「統一ヨーロッパ」意識の現代ドイツ文芸理論における諸反映（その一）（四五）
文学と社会との連続・非連続の問題（四六）
芸術は「進歩」するか（四九）
能の美学・序説（五〇）
ルカーチュの論文「上部構造としての文学」に対する批評（五一）
文学研究に対する「精神分析」の諸寄与（その一）（五五）
文学研究に対する精神分析の諸寄与（その二）（五六）
芸術的感動について（五七）
―文学研究に対する「精神分析」の諸寄与（その三）

田中晃

表現の構造（一六）
万葉歌人の国家思想（一八）
行為と哲学（二〇）
日本的現実主義と「もののあはれ」（二三）
生成の根拠としての自然（二五）

豊田実

日本に於けるシェイクスピア紹介の歴史（一）
英吉利漂流邦訳考（四）
芥川龍之介とエドガ・アランポオ（七）
基督教聖書和訳の歴史（一二）
故坪内博士の「英文学読本」（一二）
日本とシェイクスピア（一六）
日本に於ける英文法紹介及び研究の歴史（二〇）
俳句と英詩（二三）
生活、文化の反映としての英語史緒言の一節（二六）
言語起源の問題―英語史「第一部概観」の緒論―（二九）
言語を通じて見る英人祖先の生活―大陸時代―（三一）
日英語音の異同と国民性（三三）

人及び作家としてのシェイクスピア（三五）
シェイクスピアの女性観（三六）

鶴　久

上代特殊仮名遣の消滅過程について
―「野」字の変遷をめぐって―

山内晋郷

六朝時代の展望（二）
牟子問題の清算（四・五・六）
王鳴盛氏の仏典観（二）

矢田部達郎

古語に於ける「てには」の意義（三二）

吉町義雄

「物類称呼」西国方言索引（一）
九州方言の特異性（二・三・五）
島津斎彬の「ローマ字日記」と長田穂積の「菊池俗言考」（七）
博多仁和加用語に現れた活用一段化趨勢（一〇）
日本語動詞現在時形態論（一五・一七・一九・二二・二四・二六）
九州方言四段変格活用動詞分布相（二三）
紫雲鹿児島方言文学四書抄（二八）
山人施福多「日本文庫及び日本文学研究提要」（三〇・三二）
塙都創刊日本語辞書（三三）
大和口上言葉集（三四）
上海刊行日本語文典（三五）
九州方言推量・打消助動詞活用分布相（三六）
「日本風俗備考」蘭日会話（三七）
九州方言指定・比況助動詞活用分布相（三八）
対馬字引「日暮芥草」府中語抄（四〇）
九州方言敬譲・希求助動詞活用分布相（四一）
「園翁交語」と「八丈実記」の島言葉（四二）
イブン・マーリクの千一行詩亜語文法（四三・四七・五〇・五四）
九州方言感動詞訛形分布相（四四）
九州方言代名詞訛形分布相（四八）
滑稽一寸見た夢物語（五二）
洒落イブン・マーリクの千一行詩亜語文法（五）（五六）
「欧弗亜旅行記」瑞日語彙（五七）

「文学研究」発行年月一覧表

第一輯　昭和七年三月
第二輯　昭和七年十月
第三輯　昭和八年二月
第四輯　昭和八年三月
第五輯　昭和八年八月
第六輯　昭和八年十月
第七輯　昭和九年一月
第八輯　昭和九年五月
第九輯　昭和九年十月
第十輯　昭和九年十二月
第十一輯　昭和十年四月
第十二輯　昭和十年七月
第十三輯　昭和十年十月
第十四輯　昭和十年十二月
第十五輯　昭和十一年四月
第十六輯　昭和十一年七月
第十七輯　昭和十一年十月
第十八輯　昭和十一年十二月
第十九輯　昭和十二年五月
第二十輯　昭和十二年十月
第廿一輯　昭和十二年十一月
第廿二輯　昭和十三年三月
第廿三輯　昭和十三年十月
第廿四輯　昭和十三年十二月
第廿五輯　昭和十四年六月
第廿六輯　昭和十四年十二月
第廿七輯　昭和十五年七月
第廿八輯　昭和十六年三月
第廿九輯　昭和十六年八月
第三十輯　昭和十六年十二月
第卅一輯　昭和十七年六月
第卅二輯　昭和十七年十二月
第卅三輯　昭和十八年十二月
第卅四輯　昭和二十年三月
第卅五輯　昭和廿一年三月
第卅六輯　昭和廿三年三月
第卅七輯　昭和廿三年十二月
第卅八輯　昭和廿四年十二月
第卅九輯　昭和廿五年三月
第四十輯　昭和廿五年十一月
第四十一輯　昭和廿六年三月
第四十二輯　昭和廿六年十一月
第四十三輯　昭和廿七年三月
第四十四輯　昭和廿七年十二月
第四十五輯　昭和廿八年三月
第四十六輯　昭和廿八年八月
第四十七輯　昭和廿八年十二月
第四十八輯　昭和廿九年三月
第四十九輯　昭和廿九年七月
第五十輯　昭和廿九年十二月
第五十一輯　昭和三十年三月
第五十二輯　昭和三十年六月
第五十三輯　昭和三十年十二月
第五十四輯　昭和三十一年三月
第五十五輯　昭和三十一年九月
第五十六輯　昭和三十二年七月
第五十七輯　昭和三十三年三月
第五十八輯　昭和三十四年七月